

平成27年度定時総会の概要

5月21日、仙台市内のホテルで平成27年度定時総会を開催しました。東北6県および新潟県などから、会員を中心として約300名の出席がありました。

高橋實会長は、冒頭の挨拶で、国のエネルギー政策について触れ、「それぞれ一長一短のあるエネルギー源を上手く組み合わせ、多様性のあるエネルギー構成とすることが基本である」とした上で、火力が約9割を占める現在の日本の発電状況について、安定供給、経済効率性の向上、環境への適合の観点からそれぞれ問題点を指摘し、「福島第一原子力発電所の事故以降、各原子力事業者は数々の安全性向上対策を実施し、原子力施設の安全性は飛躍的に向上している。原子力規制委員会による効率的な審査、そして、原子力発電の早期再稼働が望まれている」と強調しました。また、「平成27年度は、わが国の今後のエネルギーのあり方を決める重要な時期となる。当会は、エネルギーを巡る情勢変化を敏感に捉え、適切かつ客観的な情報提供に取り組む」と述べました。



議事では、

- エネルギーを巡る情勢変化を捉えた適切かつ客観的な情報の提供
- 放射線に関する正しい知識の普及啓発
- 福島県をはじめとする被災地の復興支援の継続実施を活動の力点とする平成27年度の事業計画が原案どおり承認されました。



また、役員の改選を行い、新会長に東北電力副社長の井上 茂氏が選任されました。

そして、会議の終盤に、井上会長から「当会がこれまで築き上げてきたネットワークを大切に、『正しい情報を提供、共有すること』、『対話により将来のエネルギーのあり方を考えること』という2つの視点を持って諸活動を進めていく所存であり、当会へのご指導ご支援を今後も変わらずお願ひしたい」と就任の挨拶がありました。

総会後の記念講演会では、政治評論家の加藤清隆氏から「激動の政治情勢を読む」と題してご講演いただきました。

